

近畿商工会議所連合会 中国経済視察団 派遣報告

1. 趣 旨：

発展著しい中国のなかでも新たな台頭が見られる環渤海地域・東北地域の先進企業、商工関係施設、開発区等の視察、関係行政当局との懇談を通じ、WTO加盟やオリンピック開催決定などを契機に変貌を遂げつつある同国産業・社会事情を多角的に見聞すると共に、日中国交正常化30周年の節目を迎えた日中関係、とりわけ近畿との地域間交流につき意見交換を行う。

2. 主 催：近畿商工会議所連合会

3. 日 程：2002年3月16日～23日（8日間）

4. 団構成：団長（長春～大連）田代 和 近畿商工会議所連合会 会長 大阪商工会議所 会頭 団長（煙台～青島）前田 逸郎 亀岡商工会議所 会頭

他29名 総勢31名

5. 訪問先：

3.16 (土)	10:40～12:35 18:00～20:00	関西→青島(全日空157) 煙台市長主催歓迎夕食会(「煙台金海湾大酒店」)
3.17 (日)	9:30～11:00 11:20～12:30 12:40～14:00 15:10～16:50 17:00～17:10	「蓬萊市園芸場果物生産基地」・「中糧葡萄酒有限公司」視察 「蓬萊閣」観光 蓬萊市政府主催昼食会(「蓬萊賓館」宴会庁) 「山東龍大企業集団有限公司」・「山東神龍食品有限公司」視察 「萊陽市食品工業団地」視察
3.18 (月)	9:00～9:45 10:00～12:00 13:30～14:20 14:30～15:10 15:10～15:20 16:30～17:30 18:00～20:00	「青島市対外経済貿易合作局」表敬訪問 「青島海爾(ハイアール)集団公司」視察 城陽区表敬訪問(区人民会堂第4会議室) 「青島環海経済開発区」内「青島奔達汽车配件有限公司」視察 「青島流亭工業園」視察 「青島ビール有限公司 第2工場」視察 「青島市対外経済貿易局」主催夕食会(「海天大酒店」内)
3.19 (火)	9:00～11:00 13:50～14:20 14:40～16:00 16:20～16:30 19:05～20:40	青島市内観光(小魚山公園、小青島、青島迎賓館など) 「青島港湾前湾港」(石炭バース・コンテナ埠頭)視察 「青島経済技術開発区管理委員会」表敬訪問 「青島経済技術開発区」内日系「青島三美電機有限公司」視察 青島→長春(中国北方航空6358) ホテルへ移動
3.20 (水)	9:30～11:30 14:50～17:00 18:00～20:00	「長春客車工場」視察 関西財界訪中団とホテルで合流 「長春映画製作所」視察 吉林省政府との懇談・吉林省政府主催夕食会(「南湖賓館」)
3.21 (木)	8:40～9:40 9:50～10:10 10:15～10:40 12:00～12:30 12:30～14:00 18:00～20:00	「第一汽車集団公司」自動車工場視察 「長春高新産業開発区」管轄「一汽ゼクセル空調有限公司」視察 「長春高新産業開発区」管轄「一汽光洋ステアリングシステム有限公司」視察 長春市人民政府との懇談会・同昼食会(「長春中日友好会館」) 長春市街地 観光(新民大街、偽皇宮、南湖公園など) 田代団長主催夕食会(「長春シャングリラ」内3F「西安庁」)
3.22 (金)	8:15～9:20 10:45～11:00 13:05～13:20 13:30～14:30 15:00～15:20 16:45～17:15 17:30～19:30	長春→大連(中国北方航空6543) 「金石灘ゴルフ場」視察 「大連経済技術開発区管理委員会」視察 「日中合弁大連工業団地」団地内日系「大連一広毛巾有限公司」視察 「ウォールマート大連」視察 大連市政府との懇談(大連市役所) 大連市書記との懇談・同夕食会(フラマホテル)

3.23 (土)	9:00～9:50	旅順観光（「東鶏冠山」「203高地」「“水師営の会見”の地」）
	10:10～10:40	大連→関西（日本航空790）
	11:00～11:15	大連→関西（全日空948）

6. 訪問先での懇談概要：下記参照

総括

< 新しい中国の姿 >

- ・開発区や政府幹部との会談では、しきりに「世界のルールを遵守する」旨の発言が聞かれ、WTOに加盟した新しい中国の姿を熱っぽくアピールする担当者の姿が印象的であった。
- ・成果主義とそれに基づく配置転換の即行は日本以上であり、「海爾」といった先進企業のみならず、市長クラスの政府指導者をはじめ開発区や国有企業の大要職には、軒並み三十歳代後半～四十歳代が抜擢されており、長老支配の風潮が色濃いと言われたかつての中国とは様相を異にしている。
- ・女性の登用にも目を見張るものがあり、今回の視察団だけでも、煙台・蓬萊の両副市長や大連市の書記をはじめ、多数の女性幹部の活躍が目立った。
- ・青島の経済開発区内のある日系企業では、従業員の三分の一が日本での研修を経験しており、技術の習得はもとより、一定レベルの日本語を話せるとのことであった。まだまだ一部とはいえ、単純労働の従業員がこうしたポテンシャルを持ちつつある中国の労働力の質的強みは特筆されよう。
- ・一昔前までは、文化の違いや市場観念の未成熟などから、中国での従業員教育の限界が囁かれた時期もあったようだが、今回視察した日系企業では、工場内の壁面に日本語のスローガンを掲げるなど、日本式の経営のもとで、整然とした秩序を保ち、黙々と仕事に打ち込む従業員の姿が印象的であった。
- ・訪問した日系企業では、総経理や経理ポストを、日本での研修から戻った中国人を充てるなど、経営の現地化が着実に進められている事例も散見された。

< 中国のダイナミズム >

- ・都心、郊外、農村、海岸に至るまで随所で何らかの建設が行われている。長春、大連では、都心の一等地があたかも爆撃を受けたかのように区画ごと取り壊され、都市開発が急速に進められている光景が印象的だった。
- ・企業にせよ、政府にせよ、官僚主義が支配的であるにも拘らず、意思決定が驚くほど早い。これは、トップ権力の強大さの一方で、ボトムアップが通りやすい現場尊重主義が徹底しているからだという。「海爾」では、消費者の声がセールスマンを通じて直ぐにトップに伝達される。こうした点は日本が最も不得意とする点であり、大いに見習うべき点ではなからうか。

< 近畿と中国の新しいパートナーシップ >

- ・今回訪問した各都市は総じて近畿を重要視していることが確認できた。その理由として、距離が近いこと、近畿の中小製造業の技術力に対する信頼が高いこと、従来から経済的・文化的なつながりが深いこと、多くの中国人が在住していること、などの点が挙げられることが多かった。
- ・投資にせよ技術提携にせよ、日本による中国への援助・指導といった一方通行型の交流を超えて、「共に儲かるビジネスパートナー」「補完し合う間柄」といった、市場を介しての対等な交流を中国側が求めていることが確認できた。
- ・今後は、地域と地域との直接的な経済交流が一層重要性を増すことになる点において意見の一致をみた。そうしたなかで、近畿商工会議所連合会としても、近畿のポテンシャルを中国側に十分アピールし、中国とのビジネスチャンスを他地域に奪われることがないよう鋭意努めていく必要がある。

山東省煙台市

○ 煙台市副市長ら煙台市人民政府幹部との懇談会・市長主催歓迎夕食会

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・沿岸部で新たな台頭が見られる煙台市と日本との交流について懇談

[李淑芹副市長、程獻萃市対外貿易経済合作局書記による煙台市の概況説明]

- ・工業は、機械、自動車、食品加工、紡績、化学、金加工などが発達。農業では、落花生、野菜、果物（「煙台リンゴ」）等が主要産物。海産物も豊富。
- ・約 50 カ国と合弁・合作。外資利用は、契約 80 億ドル、実行 50 億ドル。
- ・日本は輸出入とも 1 位。投資額は 6 億ドルで外資利用実績は 50 ヶ国中 3 位。食品、水産、紡績、機械などを中心に 16 社が進出。
- ・日本から距離が近く、市は日本を重視している。昨年頃から日本の視察団や観光客が増加。今年中には、大阪もしくは東京との間に空路を開設したい。

[前田団長の答礼挨拶]

- ・貴市は「遣唐使」が最初に降り立った町として近畿に縁がある。新たに台頭がみられる貴市と近畿との今後の経済交流を期待する。

○ 「蓬萊市園芸場果物生産基地」(「中糧葡萄酒有限公司」) 視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・セーフガード問題の震源地ともいえる山東省における農業・農村の実態を視察
- ・WTO 加盟に伴う影響が懸念される中国の農業・農村の現況を視察

[訪問先概要]

- ・省最大の果物生産・加工会社。果物輸出量 2 万 t で輸出純益 1500 万ドル。
- ・気候がフランスのボルドーに似ており、中国一の「長城ワイン」等を生産。

[張維麗蓬萊市副市長、王作仁技師による概況説明]

- ・国有企業を株式化し効率が上がった。
- ・果物は東南アジアや中東に、畜産品は日本に輸出。ワインは殆ど国内で消費。
- ・洗浄、加工の設備はオーストラリアから、選別技術は日本から導入。
- ・果物生産は農民の収入向上に寄与。一般的な工場では月 700～900 元だが、当社では 1000 元の賃金を支払っている。
- ・栽培・加工の一方で、農業観光にも注力しており、観光地としても整備中。

○ 「山東龍大企業集団有限公司」(「山東神龍食品有限公司」) 視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・日中合弁の食品加工メーカーにおける現地加工や開発輸入の実態を視察

[訪問先概要]

- ・省最大の食品加工業者。「加ト吉」や「ニチレイ」と合弁。
- ・輸出純益 6600 万ドルで「郷鎮企業輸出外貨獲得企業ベスト 20」の一つ。

[呂萊陽市副市長、汪宣伝部長による概況説明]

- ・300 品目を生産。受注生産中心。販売額では輸出が 60%、国内販売が 40%。
- ・輸出先は日本、韓国、シンガポール、ヨーロッパなど。輸出の 7 割が日本。
- ・消費者ニーズに応じた調理・味付けを行っており、対日輸出品の場合、日本側が商品開発、技術指導、販売を、中国側が原料提供や工場管理を行う。
- ・当社の製品は検疫なしに直接日本のスーパー等で販売されている。
- ・セーフガード問題の中心は技術標準がないことだと思う。
- ・国内で販売する商品には「龍大」ブランドをつけているが、輸出する商品は販売する企業のブランド名で売られている。
- ・従業員の賃金は平均して 500～1000 元ほど。部長クラスで年 5 万元ほど。
- ・当グループは、全国で 40 万人の農民に就労の場を提供。

山東省青島市

○「青島海爾（ハイアール）集団公司」視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・現代中国の発展を象徴する新興企業の経営に学ぶ

[訪問先概要]

- ・売上 6 千億円、従業員 3 万、19 の工場で 69 製品を製造。洗濯機シェアは 38 %。
- ・実績主義に徹し、毎年 10 % の社員が入れ替わる。昨年の大卒採用は 1800 人。

[邵明津董事局副主席による概況説明]

- ・「価格ではなく価値の戦争を」との認識の下、世界各地に 15 の設計支社を設け、各地域の需要に応じた付加価値の高い製品を生産。
- ・ソフト面の改革は瞬時に行う。開発から生産までのスピードは普通のメーカーの 3 倍で行う。スピードがなければマーケットはなくなってしまう。
- ・新製品を開発する技術者には休日など要らない。管理者は休み時間を殆ど取らずに働く。我々は今、日本が 1960 年代にしていたことをやっている。
- ・新製品開発にはセールスマンを活用。商品に対する希望や意見の収集させ、本社に伝達させている。現在、1 千万の消費者情報を保有している。
- ・販売は、各地の百貨店やスーパー、県クラスの専門販売店を通じて、また、物流は、全国各地に設けた当社の物流会社や郵便局を通じて全国的に行っている。インターネットを通じた通信販売を去年から開始し、販売シェアは 7 %。
- ・技術、販売手法、マネジメントの多くは日本から学んだものだが、サービスの面で当社はさらに発展させ、2000 箇所・24 時間のサービス体制を実施。
- ・人材は各工場ごとに募集。技術者の給料は実績主義。若年でも何十万元の奨励金を出す。一方で年功序列もあり、会社に対する長年の苦勞に報いている。
- ・社員の発明による特許は、当人に賞金を支払うことによって会社のものとしている。また、技術者が会社を辞める場合は、同業界に 1 ~ 2 年間は再就職しないという契約を入社時に取り交わすことにしている。
- ・今後は金融分野にも進出し、金融と産業を上手く融合させてゆく。

○「青島市城陽区人民政府」(「青島環海経済開発区」<省レベル>) 表敬訪問

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・WTO 加盟後の経済開発区における外資政策の行方について懇談

[張希田城陽区副区長による城陽区・青島環海経済開発区の概況説明]

- ・WTO 加盟後は、国際ルールに従うとともに、政策の透明性を高め、法律に則った管理を行う。優遇策の廃止を心配するむきもあるが、区としては、従来の優遇策を保ってゆくと同時に、今以上の新たな優遇策も検討してゆく。
- ・区内の日本企業は 60 社。日本を何度も訪問しているが、中国や青島に対して誤解や理解不足が多いことを痛感。近畿との交流はこれまで不足していた。今後は交流を深め、城陽区を日本企業の進出先として中国最良の地にしたい。

○「青島ビール有限公司」視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・激変する経済環境のなかで飛躍を続ける老舗国有企業の経営に学ぶ

[訪問先概要]

- ・ドイツが 1903 年に創業。国有企業の海外上場第一号として香港市場に上場。
- ・6 年間で内外 20 社を買収し、生産量 4 倍増に。国内トップだがシェアは 5 %。

[董接待弁公室主任による概要説明]

- ・改革開放後のビール需要急増に伴い、内外の多数のメーカーが乱立と合併を繰り返した挙句、多くが撤退を余儀なくされるなかで、当社は品質重視に多大な努力を積み重ねてきた結果今日まで発展してきた。
- ・対外開放による競争のインパクトがなかったら、今の当社の発展はなかっただろう。競争は好んで受け入れる。競争があるからこそ企業は成長できる。
- ・アサヒや麒麟との技術提携を通じ、今後も日本の先進的手法を学んでゆく。

○「青島経済技術開発区管理委員会」・「青島市対外経済貿易合作局」表敬訪問

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・開発区における中小企業や軽工業の入居状況や優遇施策について懇談。

[前田団長の挨拶]

- ・中小企業に対する投資優遇策の現況や近畿に対する要望などをお聞きしたい。

[姜杰青島経済技術開発区管理委員会主任（区長）による開発区の概要説明]

- ・青島と日本は距離が近く、重要なパートナーとして緊密関係を保っている。当区への投資は日本が一番多く、食品、野菜、肉などの分野が目立っている。
- ・日本の企業は一時期、大連に集中的に投資していたが、今日では青島に注目している。気候、交通の便、投資環境の良さなどが評価された結果だと思う。
- ・近畿は中小企業の町とのことだが、開発区への中小企業の誘致は大切。特にハイテクまたは新技術型企業は歓迎したい。

[張海防市対外経済貿易合作局副局長による青島市の概況説明]

- ・青島の4つの特徴は、「港の町」（貨物取扱1億t）、「軽工業の町」（飲料、野菜、水産、電子工業等）、「海洋科学の町」（海洋研究者の集積）、「観光の町」。
- ・外資企業数は累計1万1千社。総投資額は契約187億ドル、実行100億ドル。額、数量とも、香港が一番多く、マカオ、韓国、米国、日本の順。
- ・日本企業は700社。外資の中では最もスムーズに運営されている。近畿は重要な地域と認識。今後は地方同士の交流が一層増えていくだろう。

吉林省長春市

○「第一汽車集団公司」（「アウディ」生産ライン）・「長春客車工場」視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・WTO加盟後の動向が注目される自動車産業や大型国有企業の現況視察。

[訪問先概要]

- ・「第一汽車集団公司」は、従業員10万人を擁する中国最大の自動車メーカー。最近ではVW社との合併で「ボラ」「アウディ」など乗用車生産も。
- ・「長春客車工場」は、シェア58%の中国最大の車輛工場。イラン他にも輸出。

[王「第一汽車集団公司」副社長による概況説明]

- ・生産量41万台、売上620億元だが、日本のトヨタとは比較にならない。

[馬樹坤「長春客車工場」工場長による概況説明]

- ・中国は国土が広く人口も多いため、鉄道が輸送の主力。最近は高速道路の発達により、鉄道輸送のシェアは55%に低下しているが、鉄道輸送はなお重要。
- ・目下、国有企業は、新しい経営メカニズムへの転換を迫られている。当社も先頃、政府の鉄道部から離れ、経営を改革中。今後は株式化してゆく予定。

○「長春映画制作場」視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・映画産業を通じた都市の魅力向上策などにつき懇談

[? 副場長からの概況]

- ・旧満州映画株式会社を前身としており、歴史的に日本とのつながりが深い。1945年以来、中国最大の映画制作所として、中国映画の発展に貢献してきた。生産能力は年間20~30本だが、需要が減少し、年間制作本数は10本程度。
- ・今後は、当施設の古い部分を残し上手く活用してゆく一方で、郊外に「世紀城」という映画に関するテーマパークを建設し、観光事業も進める。また、株式会社形式で運営し、市場経済に合わせた進路を模索してゆく。

[田代団長の挨拶]

- ・映画産業に対し、貴所と近畿は思いを共にしている。今後も情報交換を。

○吉林省副省長ら吉林省人民政府幹部との懇談会・省政府主催夕食会

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・吉林省と近畿の今後の経済交流について懇談

[全哲洙吉林省副省長による吉林省の概況説明]

- ・農業は、食品類生産が一位であるなど非常に発達しているが、農産物の生産過剰に悩まされており、転換が迫られている。
- ・工業は、自動車为主导産業だが、国内市場が潜在レベルに留まっているため生産量は必ずしも多いと言えない。石油化学工業も開発面が今後の課題。
- ・経済は、不況下の日本と同様、市場の拡大に苦慮。生産効率の低さも問題。「第一汽車集団」ですら労働者1人当りの年産は10台前後であり、改革の進んだ工場の半分ほど。国有企業の過剰労働者の削減も難題。
- ・日本との貿易額は4億9千万ドル。うち3億ドルが輸出で、衣類や鶏肉などが多い。省内の外資企業3800社のうち380社が日本企業。殆どが中小企業なので、投資額は2億ドルと少ない。今や沿岸部並みに投資環境が整った吉林省に日本企業が投資しないのは理解できない。長い目で投資してほしい。
- ・近畿は非常に広く、多数の企業がある。近畿商工会議所連合会と中国国際貿易促進委員会吉林省分会との間に友好関係を築くことを提案したい。

[田代団長の挨拶]

- ・長春は私が少年時代を過ごした第二の故郷。60有余年ぶりの訪問だが発展ぶりに驚いている。
- ・日本で台頭している「中国脅威論」は非生産的。近畿の中小企業は中国を重視。今後は両国が共生の道を探らねばならない。特に地域間協力が重要だ。

○長春市長ら長春市人民政府幹部との懇談会・昼食会

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・長春市と近畿との今後の経済交流について懇談

[李述長春市市長による長春市の概況説明]

- ・長春は国内の同規模都市の中で最も成長率が高い。食糧生産において随一の都市であると同時に、工業においても総合実力は全国15大都市中6～7位。工業企業の利潤は、ハルビンと瀋陽を合わせた合計とほぼ同じ58億元。
- ・外資企業は全体の14%だが、生産率で36%、利潤では74%を占めている。
- ・労働者や技術者の質・量に恵まれている一方、給与は広東省の五分之一と安価。長春の低賃金と日本の高技術が組み合わせればすばらしい合作ができる。

遼寧省大連市

○「日中合弁大連工業団地」(「大連経済技術開発区」内)視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・日本企業の進出先としての大連の都市概況や入居日本企業の概況などを視察

[訪問先概要]

- ・日中国交回復20周年記念事業として両国官民の協力により建設。
- ・インフラ充実度が高く、全217haの9割が分譲済。工業団地開発の成功例。

[福井隆夫大連工業団地開発管理有限公司董事による工業団地の概況説明]

- ・入居企業45社中41社が日本企業。うち40社が独資。全体的に業績好調で、日本企業の撤退はゼロ。2～3年で黒転するケースが多い。
- ・原材料を日本から持込み、製品を日本へ輸出する加工貿易が主。国内販売と輸出の比率は7：3。内販が少しずつ増えてきている。景況に応じて内販と輸出の比率を変えるケースがある。
- ・大連の弱点は、原材料の現地確保が南部に比して弱い。上海や広東で内販する場合、納期と輸送コストの面で南部に劣る。東北3省には、日本人気質が残っているため、南部にみられるような柔軟性に欠ける。
- ・大連の強みは、東北への国内販売の基地、対日貿易の輸出基地、親日

- ・ 的で治安良好、 豊富で安価（年間 30 万円で直接費と間接費全てが賄える）な労働力、 日本と近い（物資の輸送は通関を含め 10 日～2 週間でできる）。
- ・ 東北地方の国有企業はリストラが完了しつつあり、市場性を持ちつつある。
- ・ 国内販売をする際、日本での取引先を中心に販路を拡大する例が多い。

[周海斐大連開発区管理委員会主任による大連経済技術開発区の概況説明]

- ・ 1984 年発足以来、日本の商工関係者からのご指導を受けて発展してきた。区内の日本企業は、中小企業を含め殆ど上手くいっており有難く思っている。
- ・ 区の GDP は昨年より 20.8% 伸び、66 社の新規企業を迎えた。2001 年の大連市納税上位 50 社中 20 社が、外貨獲得上位 50 社中 24 社が当開発区の企業。
- ・ 今後は、中小企業による投資や入居を奨励していく。特に、区内の企業にパソコン周辺機器や機械精密製品の部品を提供する企業の入居を期待している。

○「大連一広毛巾有限公司」（「日中合弁大連工業団」内）視察

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・ 進出の経緯や大連での日本企業の実情、セーフガード問題の背景などを視察

[戸川禎三董事・総経理による概況説明]

- ・ 独資企業として進出 8 年目。2001 年売上は 1290 万ドル。2001 年 3 月に累計損解消。ブランドタオルの一貫生産、エプロンなど縫製品やニットも生産。
- ・ 現在、対日輸出 100% だが、今年から国内市場で販売を予定。現在、商品開発は日本で行っているが、内販に伴い、中国での商品企画も行ってゆく。
- ・ ミシン縫製は人手が必要。従業員は 1100 人。うち 90 人は日本で最低 1 年間研修を受けている。日本式の経営を意識的に行い、上手くいっている。
- ・ 中国進出の経緯は、日本で良質な労働力が得にくい、人件費が安く、若くて目の良い優秀な人材が豊富にいる、管理者が非常に優秀。
- ・ 日本での生産と大連での生産の比率はちょうど半々だが、ここ大連では、多品種、少ロット、短納期という方針を実践しているため、日本で作るより手の込んだものや高品質・高付加価値な製品を生産している。こうした点がセーフガードの問題につながってきている。日本の産地には申し訳ないが、中国国内で多品種、少ロット、短納期が実践出来る以上、仕方がない問題。
- ・ 土曜日も休みなく、日曜日でも一部操業することがあるが、加算される残業費が高い（残業：2 倍、祝日：3 倍）ため、従業員の満足度は高い。また、日本での研修は彼らにとって非常に魅力的なことといえる。
- ・ 平均賃金は、基準としては 700 元だが、残業を行う場合 1400 元程になる。同業種でこれだけの賃金はまずない。これまでは、対日輸出のための高付加価値品が中心だったため、このような高コスト体質でもやっていけたが、今後は、低価格で国内販売を行ってゆくことになるので、この体質は頭が痛い。

○中共大連市委書記・大連市副市長ら大連市幹部との懇談会・市政府主催夕食会

[訪問趣旨 / 懇談ポイント]

- ・ 大連市と近畿との今後の経済交流について懇談

[李萬才大連市人民政府副市長による大連市の概況説明]

- ・ 1984 年には 120 億元だった大連市の GDP は 2001 年に 1237 億元となった。
- ・ 進出外資企業は累計で 8 千社。うち 4 千社が稼働。外資実行額は 100 億ドル。日系企業は一番多く 2 千社。投資総額は市全体の 50% を占めている。
- ・ 2001 年納税額上位 50 社のうち 20～30 社が外資企業。うち 18 社が日系企業。大連市の発展における日系企業の貢献を忘れてはならない。
- ・ WTO に加盟に伴い、市は、製造業や農業の改革に加え、物流の中心地として、また金融事業の開放都市の一つとして金融サービス事業の開放を行っていく。
- ・ 大連市は省と合同で 5 月 24 日から、「日本週間」というイベントを行う。

[孫春蘭中共大連市委書記書記による挨拶]

- ・ 大連市には、既に 8 千社の外国企業が進出しているが、日本企業は 2 千社ほどあり、大連の経済発展に重要な役割を果たしてきた。
- ・ 近畿は日本経済の中で重要な地域。近畿と大連の工業構造は類似しており、

相互補完性があるので一層の交流を深めたい。

- ・現在、大連市は、W T O加盟後の国際競争を見据え、ソフト面での投資環境改善に努めている。具体的には、規制緩和と権限下放（既に市政府の機能を53%削減した）を進め、企業が仕事をし易い環境を作る、法整備を進め、企業に平等な競争環境を提供する、税関など国の機関と調整し、行政サービスの効率アップ（電気部品の輸出入は24時間以内に通関できるように改善した）を図る、公務員の質向上を通じて政府の質向上に努める。